

市町村立図書館等活動支援誌



あけぼのつうしん

No.56

2016年12月21日発行

主な内容

～市町村活動支援特集号～

〔目次〕

■ 市町村活動支援事業実施の状況から

| | |
|-------------------|--------|
| (1) 運営相談事業 |1 |
| (2) 支援貸出事業（事業貸出し） |2 |
| (3) 出前講座（文学館連携講座） |4 |
| (4) 学校図書館運営相談 |5 |
| (5) 学校図書館サポートボックス |6 |

北海道立図書館

■ 市町村活動支援事業実施の状況から

(1) 運営相談事業

運営相談事業は、市町村立図書館（室）の活動を活性化するため、運営全般について助言等の支援を行うものです。道立図書館の職員が市町村立図書館（室）や教育委員会を訪問し、助言や情報提供を行います。

・ 羽幌町（羽幌町中央公民館図書室 平成 28 年 7 月 5 日）

～複合施設の基本構想について～

7 月 6 日実施の羽幌小学校における学校ブックフェスティバルの準備を進めていたところ、羽幌町教育委員会から電話が入りました。まだ先の話だと考えていた中央公民館の建替えが急遽、優先順位の最上位になる見込みになったとのこと。

羽幌町では、平成 27 年 3 月に「羽幌町公共施設白書」を作成しています。その内容は、町内の公共施設等の現状や課題を町民に周知し、今後のあるべき姿を検討するための基礎資料とするもの。これをもとに、平成 28 年 9 月にさらに内容を具体化させた「公共施設マネジメント計画」（以下、「マネジメント計画」）を策定するスケジュールとなっており、当初、運営相談は「マネジメント計画」策定後の 10 月に予定していました。しかし、耐震構造の問題などから、急遽、中央公民館の建替えが優先順位の最上位になる見込みになり、7 月 12 日には町政懇談会の席で住民説明、その反応も考慮し「マネジメント計画」が策定されるという中、よりよいものを作りたいという教育委員会の熱意が伝わりました。

そこで、学校ブックフェスティバルの前日に、中央公民館の建替えに向けて、基本構想をはじめ、準備作業について運営相談を行うことにしました。道立図書館からは、道内の新館構想の事例や、図書館建設関係の参考図書などを紹介しました。また、時間がない中でも、検討委員会等の組織を立ち上げ、様々な立場の町民の意見を聞く会議を重ねることが一般的であることや、全国的に公共施設の複合化が進んでいることから、複数町村を視察する必要がある旨助言しました。

羽幌町では、この機会に図書館条例を策定する方向で調整をすすめています。道立図書館としても、引き続き細やかに情報収集や情報提供を行うなど、支援に努めていきたいと考えています。

※「マネジメント計画」については、羽幌町のホームページで公開されています。

<http://www.town.haboro.lg.jp/gyousei/koukyousisetumanejimento/index.html>



■ 市町村活動支援事業実施の状況から

(2) 支援貸出事業（事業貸出し）

- ・ ピックアップ！～利用の様子の一部をご紹介します～

？事業貸出しとは？

大型絵本、しかけ絵本、エプロンシアター、おはなし迷路、外国語絵本など、子どもたちに人気がある資料を貸し出すもので、図書館まつりを始め、学校・保育所・健診会場等で行う行事、ボランティア団体等が主催する行事等で利用いただけます。

『事業貸出し 利用案内』で借りたい資料タイトルが決まりましたら、電話で在庫を確認した後、FAXで申込みください。申込みは随時受け付けています。

☆利用例 ～今年度の利用報告から～☆

今年も多くの図書館等でご利用いただいています。

今回は、利用の様子の一部をお伝えします！

<利用市町村の声>

- ・ 人形劇と人形劇の舞台転換の間に『変身泥棒』（おはなしの小道具）をやりましたが、約3～4分でちょうどいい時間になり、スムーズに演目進行を行うことができました。
- ・ 広い会場でも迫力のある大型紙芝居はとても喜ばれていました。（『なんにもせんにん』）
- ・ 読書週間に合わせて、町立小学校でブックイベントを行いました。今年は北海道でも台風が多い一年だったため、大型紙芝居『台風がきたぞ』の読み聞かせをしました。6年生の感想で、「紙芝居を通して、自分の町にも台風がきたらどうすればよいかを考えることができた」と話していました。絵がとてもはっきりしていて、見やすかったところも児童からは好評でした。
- ・ エプロンシアター『くいしんぼゴリラ』は、乳児さんも真剣な表情で見入っており、おはなし系のものより良かったと思います。（去年借りたエプロンシアター『ながぐつをはいたねこ』は結構話が長いので、途中で小さい子は飽きてしまいました。）
- ・ 大型絵本『パパ、お月さまとって！』は、ダイナミックにひろがる様子が楽しかったようです。（ダイナミックさがとてもいいので、自館でも購入検討中です。）

<利用市町村からよせられた写真>

- ①【ブラックパネルシアター】余市町図書館 事業名：ぬいぐるみおとまり会



利用報告書コメントから

「パネルシアターをみたことがない参加者が多く、ブラックライトで光るため、びっくりしていました。」

他の利用市町村からも！

「なかなか見る機会がないと思われ、子どもたちも食い入るように見てくれました！」
「ブラックライトパネルシアターはなかなか見る機会もないので、子どもたちのほか、親も興味を引かれたようです。」

■ 市町村活動支援事業実施の状況から

②【おはなし迷路】市立富良野図書館 事業名：子どもの図書館まつり



利用報告書コメントから

「期間中、図書館1階児童書コーナーの特設会場に展示したところ、子どもたちが、珍しいおはなしめいろに夢中でした」

おはなし迷路について

多くの市町村に利用してもらうために、読書週間前など利用の多い時期は、状況により1市町村2点程度の利用をお願いします。

③【大型絵本】町立小清水図書館 事業名：ぬいぐるみおとまりかい



利用報告書コメントから

「「ぬいぐるみおとまりかい」でのお話会で、大型絵本を利用しました。子どもたちだけでなく、一緒に参加した保護者の方も楽しそうに聞いていました。」

<他にもこんな事業で使われています！>

【大型絵本】奥尻町海洋研修センター図書室 事業名：町民文化祭

【大型紙芝居】清里町図書館 事業名：図書館まつり

【エプロンシアター】町立様似図書館 事業名：クリスマスおはなし会

【外国語絵本、しかけ絵本】

小平町文化交流センター図書室 事業名：外国語絵本展&しかけ絵本展

【パネルシアター】

壮瞥町地域交流センター図書室 事業名：特別養護老人ホームでの読み聞かせ
などなど・・・。

しかけ絵本セットや大型絵本は、貸出先図書館等主催の「学校ブックフェスティバル」での利用例もありました。

練習期間も含めて貸出しすることもできますので、必要に応じて事業貸出しをお役立てください。

ご利用の際は、FAX申込みの前にまず電話にて在庫確認を！



■ 市町村活支援事業実施の状況から

(3) 出前講座（文学館連携講座）

・ 壮瞥町地域交流センター図書室山美湖

10月15日に壮瞥町地域交流センター山美湖で、出前講座を実施しました。

今回の出前講座は、一般向けに設定されているプログラムのひとつで、平成28年に生誕120年を迎えた宮沢賢治を取り上げた内容でした。

講師に北海道文学館理事である斉藤征義氏をお招きし、同交流センター多目的ホールを会場に、10時から約1時間講演が行われました。

この講演会は、町で実施している高齢者向け連続講座「山美湖大学事業」の一環として実施されたもので、講演



には全体で37名の参加がありました。

参加者の年齢構成は50代から70代の中老年層が多く、男性と女性の比率は半々といった状況でした。

講演は、まず宮沢賢治の出身地である岩手県花巻市の紹介からはじまり、賢治の代表作である「銀河鉄道の夜」や「風の又三郎」といった有名

な作品をメインに、解説が行われました。斉藤氏の講話の中で賢治作品の特徴として、物語の結末に様々なパターンが存在すること、作品世界に仏教の影響が色濃く見られることなどが話題にあがり、参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

また、図書館では講演に合わせて「宮沢賢治関連資料」を会場内に展示しており、講演終了後には多くの参加者が資料を手にする姿が見受けられました。

講演後の質疑応答の時間には、壮瞥町ともゆかりの深い「火山」が登場する「グスコブドリの伝記」についての質問が寄せられました。参加者からは「改めて宮沢賢治の作品を読み返したくなった」などの感想が聞かれ、盛況のうちに講演は終了しました。



■ 市町村活動支援事業実施の状況から

(4) 学校図書館運営相談事業

学校図書館運営相談事業は、市町村立図書館（室）による学校図書館への支援について、道立図書館の職員が助言や情報提供を行うものです。地域の学校へ一緒に出向き、教諭・学校司書の皆さんと具体的な運営相談や環境改善、研修等を行っています。

・ 湧別町（湧別町立芭露小学校 平成 28 年 7 月 11 日）

学校図書館の棚のレイアウトや、本の配置について助言して欲しいとの希望を受け、学校図書館の環境改善のための教職員向けミニ講座とワークショップを行いました。

ミニ講座でリニューアルのポイントを中心とした事例紹介や解説をし、その後学校の先生方と、町立図書館職員、オホーツク教育局教育支援課の協力も得て、出版年、内容等を確認しながら、古い本、傷んだ本を抜き、棚のレイアウト変更を行いました。低書架の上に、片面書架が乗っているなど使いにくい配置を見直し、本の表紙を見せて並べるなど、子どもたちが、本を手に取りやすい環境を作りました。

なお、芭露小学校では、「学校ブックフェスティバル事業」や「学校図書館サポートブックス事業」など、道立図書館の市町村活動支援事業を組み合わせ取り入れ、読書環境の充実を図っていただいています。（※12日は学校ブックフェスティバル実施）



Before

＝基本的な流れ＝

- 1 ミニ講座で環境改善の考え方を学ぶ！
- 2 面出しが簡単！ブックスタンドづくり
- 3 先生方と一緒に取り組む、除架、ディスプレイの実践

子ども達の
驚く顔が目
に浮かぶね！



After

■ 市町村活動支援事業実施の状況から

(5) 学校図書館サポートボックス

・ 利用の状況から

学校図書館サポートボックスは、学校の朝読や昼読、調べ学習等で活用できる本をセットで貸し出すもので、学校図書館や学級文庫などにご利用いただけます。

貸出期間は約半年（前期：5月～10月、後期：10月～3月）となり、長期休業中の貸出し、複数の学校で巡回をさせるなど、いろいろな使い方ができます。

今年度お申込みいただいた市町村での活用例について、ご紹介します！



学校図書館サポートボックス
「朝読・昼読ボックス」前期 活用例

朝読・昼読ボックスは、朝読書、通常の貸出の他、職員による読み聞かせにも利用されています。
写真で紹介しているのは、『いのちをいよびく』
『10歳の質問箱』です。

じっくり聞き入る子どもたちの様子がわかります。
読み聞かせにご活用いただいた例です。

＜サポートボックス感想ノートから＞

「火の雨 氷の雨」かやのしげる／作・絵 小峰書店
・ アイヌの事やくらしがわかってとてもためになった。

「キタキツネ観察事典」竹田津実／文・写真 偕成社
・ キタキツネのことを知ることができた。

「コロボックル絵物語」有川浩／作 村上勉／絵 講談社
・ コロボックルのことを初めて知った。

「漁業国日本を知ろう 北海道の漁業」渡辺一夫／著 坂本一男／監修 ほるぷ出版
・ 漁業の大変さがわかった。



北海道の文化や自然に関する本を集めた「北海道を知る本」セットをご利用いただいた、市町村から寄せられた感想です。
子どもたちは思い思いに、本を読んで感じたことを書いてくれました！

あけぼのつうしん No. 56

発行日 平成28年12月21日

編集 北海道立図書館総務企画部企画支援課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 江別市文京台東町 41 番地

TEL 011-386-8521

FAX 011-386-6906

ホームページアドレス <http://www.library.pref.hokkaido.jp/>